

会議録

- 議事内容 2023年度 2月定例教育委員会
- 日時 令和6年2月19日(月) 13:30~16:00
- 場所 4階会議室4-1
- 出席者 教育長 小西 博泰
教育委員 河嶋栄里子・藤本真理・石原友紀・酒井秀彦
事務局 入江教育管理部長・藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
竹内スポーツ振興課長・松本給食センター所長
教育総務課 澤谷

■ [会議の内容]

1 開会あいさつ

- ・教育長

2 前回議事録確認

- ・全委員一致で承認

3 報告事項

- ・令和5年度主要事業の進捗状況の説明及び教育委員からの意見聴取

■ [学校教育課関連]

①第Ⅲ期教育振興計画の具現化【教育課程管理】

(進捗状況)

- ・夢と希望の教育リーフレットの2024年版の編集を行っている。
- ・到達度テストの結果が返ってきたので、それに基づき各学校で分析を行い、その報告を求めている。市教委の方でも、簡単な分析は終わったので、それを基に今後につなげていきたいと考えている。
- ・GIGAスクールプロジェクトの実践記録集については現在集約中で、順調に集まっている。
- ・3月19日に行う、わか松の幼稚園の園舎の「お別れ園行事」に向けて準備を進めている。
- ・1月に実施したひらがな調査テストについては、現在分析を行っている。

(今後の予定)

- ・来年度のGIGAスクールのGoogleアカウントの更新準備を進めていく。

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危機管理】

(進捗状況)

- ・『報・連・相』及び『4号報告(いじめ・問題行動等)』で報告。
- ・学級閉鎖等が再び起こっているため、授業時数と教育課程の確認を各学校に指示している。

③人材育成と働き方改革【人的管理】

(進捗管理)

- ・令和6年度の新しい体制に向けての人事異動等の準備を進めている。
- ・働き方改革の推進については、リモートワークとデジタル採点システム等の準備を行っている。
- ・教職員の働き方実態調査を2月上旬に、小学校と中学校でそれぞれ抽出した1校で実施した。結果についてはこれから分析を行う。

④学校教育課情報

1 市の取組予定

- ・2月15日 学力向上推進委員会
- ・2月7日 特別支援教育 就学のための連携会議
(幼稚園・保育園所・こども園、小・特)

※7か月児・未来のパパママ教室(月1回)

いきいき子育て教室(各園)

2 学校の取組

○到達度テストの結果分析とフィードバックへ

○小野市型GIGAスクールプロジェクトの実践事例集のまとめ

1月末現在 104事例

○3月15日 中学校卒業式

○3月18日 特別支援学校卒業式

○3月21日 小学校卒業式

3 学校の状況等

○2月の4号報告2件

○1月の不登校の状況

・小学校24名 ・中学校90名 合計114名

- ・3学期に入って、軽微ではあるが、いじめ・問題行動等の報告が若干増えているので、各学校に注意するよう依頼している。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q: ひらがな調査テストについて、耳慣れない言葉だと思うので、説明をお願いしますか。(教育長)

A: 小学校2年生を対象に、ひらがなの使い方について、聞き取ったものをきちんと筆記できるかというテストを行っている。拗音が入っている言葉等を先生が発音し、それに合わせて子どもがひらがなで書き取れるかどうか見ている。それによって聞く力に偏りがある子ども等がわかるので、言葉がけや指導の際に気をつけなければいけないことがわかる。それにあわせて、フォローするトレーニングもあるので、それを低学年からすることで、中学年に入ったときにスムーズに学習ができるようになる。そういったことを知り、先生の指導に生かすためのテストである。(事務局)

Q: 2年生の1月にこのテストを行うと決められているのか。(教育委員)

A: 2年生の6月と1月の合計2回行っている。6月の分析結果から、それに対する取り組みを行ない、2月にその結果を見るような形。6月と比べてどれぐらい子どもたちが理解する力が上がっているか、逆にまだこの部分は弱いなど、そういったことを把握するために年2回行っている。現在、分析しているので3月には学校に分析結果を渡し、それを基に次のクラス編成や、学習において気をつけなければいけないことをリストアップして、来年度の指導にいかしていく。(事務局)

A: ひらがなは書いてもカタカナになったときに書けないという子どもがいる等、色々な子どもがいるので、ひらがな調査テストには大事な役割がある。(教育長)

A: 学校の教育は先生の言葉を聞いて、それを記したり自分でまとめたり、友達との会話の中で自分の考えをまとめる等、やはり聞くことがすごく重要になってくるので、その聞こえの偏りといったことをはっきりさせておくことはとても大切である。聴力というよりも、どう聞こえているか、どう捉えているかということ調べるためのテストである。発達支援室の先生等にご協力いただき、いただいたアドバイスをもとに学校にフィードバックして、指導にいかしている。(事務局)

Q: 学校の名札は1年生の内はひらがなだと思いが、どのタイミングで漢字の名札になるのか。(教育委員)

A: だいたい3年生になるタイミングで変えている。名札が傷んでくるタイミングも重なるのでそこで名札の更新をかける。(事務局)

Q: 外国籍の子どもたちはカタカナで表記するが、入学時にはまだカタカナを習っていないということで、ひらがなの名札をつけている。しかし、中にはカタカナの名札をつけている子もいたり、同じ学校でもバラバラなので、その辺りの

(今後の予定)

- ・第1回おの幼稚園開園準備検討会を開催し、デザインの決定を行う。
- ・小野市立幼稚園の設置に関する条例改正について、幼稚園の移転に伴う住所の変更手続きを3月議会で行う。わか松幼稚園の住所が変更になることに加えて、おの幼稚園が令和8年4月に西本町で開園するという2点を位置づける。

②学校施設長寿命化対策事業（旭丘中学校）

(進捗状況)

- ・校舎の建設工事について、1月末現在の進捗率は18.1%。計画通り進んでいる。工事の内容としては、内装の撤去工事が終了し、現在は配線配管工事、サッシの取付、外壁改修を順次行っている。

③学校施設バリアフリー化整備事業

(進捗状況)

- ・小野小学校エレベーター設置工事の入札を2月5日に行い工事業者が加東建設(株)に決定した。工期は2月9日から9月30日。2月15日に学校と工事業者と打ち合わせを行い、今のところ春休みから工事に着手する予定。

(今後の予定)

- ・工期が9月30日までとなっているので、2学期の途中からエレベーターが使用できるようになる予定。

(課題)

- ・1学期から学校生活が始まる中で工事も併せて進めていくので、学校生活への影響に配慮した工程・進捗管理を行う。影響が最小限となるよう学校と綿密な調整を行って工事を進める。

④教育総務課情報

1 学校施設工事等関係

○市場小学校受水槽及び消火水槽更新工事 設計・監理業務委託

令和5年5月17日入札落札 (株)小西設計 小野市上本町

令和5年5月19日～令和6年3月20日 7,700,000円

○市場小学校受水槽及び消火水槽更新工事

令和5年9月8日入札落札 藤井設備工業(株) 小野市敷地町

令和5年9月13日～令和6年3月20日 45,760,000円

→設置後約37年が経過し、老朽化が進んでいるため更新を行う。6月30日に現地調査を実施し、受水槽の設置位置を決定。

○河合小学校・市場小学校空調更新工事 設計業務委託

令和5年6月28日随意契約 (株)小野設計 姫路市

令和5年6月28日～令和6年3月20日 4,895,000円

→学校の空調は平成23年度に一斉に整備され、12年が経過し、故障等の不具合が多く、部品の生産も終了しているため修理できない状態であることから、順次更新を行う。

○小野中学校、小野特別支援学校ポンプ更新工事

令和5年8月8日入札落札 (株)エアコンサービス 小野市菅田町

令和5年8月15日～令和6年3月15日 10,813,000円

→小野中学校上水ポンプ及び小野特別支援学校消火ポンプについて、老朽化等が進んでいるため更新を行う。1月26日工事完了。

○小野小学校プールろ過設備改修工事

令和5年11月2日入札落札 金川電業株式会社 加東市

令和5年11月8日～令和6年3月11日 11,990,000円

→学校のプールろ過機は20年に一度定期的に更新が必要なので、更新工事を行う。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q:旭丘中学校の長寿命化工事について、進捗率はどのように算出しているのか。
(教育委員)

A:11月末が工事の完成時期なので、それまでの工程の進捗を日数で計算して出している。(事務局)

Q:旭丘中学校の改修の時に工事業者が出入りする場所によって、行事のときの保護者の車の流れが変わったという影響があった。小野小学校のバリアフリー化の工事では、そういった影響はあるのか。(教育委員)

A:今のところ駐車場を資材置き場等に使う予定はなく、以前はウサギ小屋等があったスペースを使って、資材置き場やトラックの搬入ルートを設ける予定にしているため、駐車場等には支障ないように工事を行う。(事務局)

Q:幼稚園が一階建てになったということで、2階に予定されていた遊戯室等の部屋は、違うところに配置されるのか。(教育委員)

A:その通り、2階に予定していた遊戯室を1階にして、保育室をある程度柔軟な使い方ができるような計画で現在進めている。(事務局)

Q:幼稚園の園章について、90件も来たということで反響がすごいですね。(教育委員)

A:1月の神戸新聞にわか松幼稚園の記事があり、そこで園章の募集について再度掲載してもらった。(事務局)

Q:1人の方が何件も応募されたということはなかったのか。(教育委員)

A:応募は1人1件となっている。(事務局)

A:他県の高校のデザイン学科の生徒たちが応募されていた。小野市について調べた上で小野をイメージして園章を作ってくれたのではないかと思い、なかなか嬉しいことだと感じている。(教育長)

■【いきいき社会創造課関連】

①小野市文化財保存活用地域計画策定事業

(進捗状況)

- ・地域計画記念講演会のポスターとチラシの作成・配布。

(今後の予定)

- ・3月9日にコミセンおおべの大ホールで地域計画記念講演会を開催する。好古館の学芸員と副館長から地域計画についてそれぞれ15分の説明があり、その後奥村弘先生の特別講演がある。事前申込制で定員が100名程度となっており、2月16日時点で約70名の申込があった。

②コミュニティセンター事業(地域づくり協議会、特色ある取組み等)

(進捗状況)

- ・すべて完了。

(今後の予定)

- ・かわい:2月21日にコミセンかわいでシニアスマホ教室を開催。
- ・きすみの:2月19日から2月22日に庁舎1階ウエルカムギャラリーできすみの祭写真展を行う。
- ・下東条:2月14日に高齢者交流グラウンドゴルフ大会を開催。

③いきいき社会創造課情報

1 事業報告

〔好古館〕

○企画展「第13回ビッグひなまつり」

期 間:令和6年1月27日(土)~3月31日(日)

内 容:館蔵品をはじめ、市内に残る逸品のひな人形81組685体を一堂に展示。

会 場:小野市立好古館 玄関ホールほか

入館者：542人（1月31日現在）

○小野商店街のひなめぐり

期 間：令和6年1月27日（土）～3月3日（日）

内 容：小野商店街の各店舗の店頭にはひな人形を飾り、春を感じながら陣屋の町小野のまち歩きを楽しんでいただく。

会 場：小野商店街、伝統産業会館、コミセンおの、好古館

2 今後の予定

[図書館]

○雑誌の付録プレゼント（抽選・50名限定）

応募期間中に資料20点借りられた方にカウンターで応募券を渡します。

応募期間：2月14日（水）～2月28日（水）

抽 選 日：3月1日（金）

[好古館]

○陣屋祭り十二単&束帯着付体験

日 時：3月3日（日） 10時～15時

定 員：6組（12人）

場 所：愛宕会館

○小野陣屋大茶会（市民大茶会）

日 時：3月3日（日） 10時～15時

定 員：150人（先着）

料 金：1席300円

場 所：好古館茶室「柳風亭」

主 催：小野市茶道協会

[コミセン]

○第19回小野陣屋まつり（小野地区地域づくり協議会）

日 時：3月3日（日） 10:00～16:00

場 所：小野商店街

（メイン会場として愛宕神社境内に特設舞台を設置）

内 容：①夢いっぱい舞台：メインステージとして、コミセンサークルや市民団体、保育所、中学校等による、演奏演舞が行われる。

②小野藩大名行列：市民の皆様から寄贈された着物を使用し、小野藩の大名行列が再現されます。

③十二単と束帯の着付け体験：新企画として、十二単等の着付け体験と記念撮影を行っていただける催し物を開催する。

④Big紙芝居：小野商店街のルーツである小野の陣屋まちについて紙芝居による紹介を行います。

⑤キッチンカーめぐり：14台のキッチンカーを誘致し、女性や家族層を中心に幅広いメニューを提供する。

※ほか多数の催し物が用意されています。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：小野陣屋祭りの駐車場は、防災センターの駐車場のみになるのか。(教育委員)

A：駐車場は防災センターの南側駐車場になる。商店街の中には駐車場は設けていない。(事務局)

■【スポーツ振興課関連】

①学校保健体育事業の推進

(進捗状況)

- ・ひまわりカードを用いた第2回「朝食摂取率調査」を1月15日から19日に実施した。5日間連続朝食摂取率は、6月の調査ではかなり下がっていたが、今回は改善した。バランスのよい朝食摂取率は今回も低かったが、ごはん朝食摂取率は改善の兆しがあるという結果になった。今回新たに取り入れた睡眠時間の調査については、課題があるという結果だった。就寝時間の基準は川島隆太先生の推奨する時間となっている。中学校は特に塾等の関係からこのような数値になったのではないかと考えられる。今後も統計を取り分析方法を検討し、達成率が向上するように啓発していきたい。

・朝食摂取率調査結果

	5日間連続 朝食摂取率	バランスのよい 朝食摂取率	ごはん(米飯) 朝食摂取率
小学校 特支小学部	95.6%	62.9%	54.6%
中学校 特支中学部	93.1%	56.9%	54.7%
幼・保	93.4%	58.0%	48.3%

・5日間睡眠時間確保

	達成率
小・特支小学部 (10時までに就寝)	72.4%
中・特支中学部 (11時までに就寝)	48.3%
幼・保 (9時までに就寝)	56.4%

- ・2月14日に部活動地域移行の在り方検討委員会を開催した。3月号広報で来年度の部活動指導員を募集して、市の会計年度任用職員として採用する。5月から部活動の顧問にもなっていただき、引率もできるような方を募集していくということで進めている。

②第10回小野ハーフマラソン2023

(進捗状況)

- ・次回に向けて検証やマニュアル更新を行っていく。
- ・3月5日に第3回実行委員会を開催し、これまでの反省点や今後の改善点を検討する。

③スポーツ振興課情報

1 学校保健体育

○第22回兵庫県中学校新人駅伝競走大会

日 時：令和6年2月17日（土）

場 所：三木総合防災公園陸上競技場周辺コース

2 社会体育

○小野市スポーツ賞表彰式並びに講演会

日 時：令和6年3月23日（土）表彰式14：00～14：50

講演会15：00～16：00

場 所：うるおい交流館エクラ エクラホール

内 容：小野市スポーツ賞表彰・小野市スポーツ協会賞表彰
赤星憲広氏講演会

3 今後の予定

○第12回小野アルプス縦走ハイキング

日 時：令和6年3月16日（土）9：30受付開始 10：00開会

場 所：スタート（神戸電鉄・JR加古川線粟生駅）

ゴール（白雲谷温泉ゆぴか）

募 集：令和6年1月15日（月）～2月14日（水）

定員300名（達成）

参加費：無料

（白雲谷温泉ゆぴか入浴半額券を参加者全員にプレゼント）

駐 車 場：加古川上流浄化センター（150台）

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：スポーツ賞について、表彰式に出席される方の席は優先的に確保されているのか。（教育委員）

A：確保している。（事務局）

Q：縦走ハイキングについて、小野アルプスを登るととても良い機会だと考える。小学校や中学校で小野アルプスに登っているところはあるのだろうか。（教育委員）

A:以前は来住小学校がよく登っていた。(事務局)

A:登っている年もあれば登らない年もある。小野小学校でも古墳が近くにあるので歴史の学習もかねて、高学年が遠足で登ることがあった。(事務局)

A:旭丘中学校で野外活動の一環として登った。(教育長)

A:小野アルプスにほとんど登ったことがないという子どもたちも多いので、積極的に活動の中に取り入れるのも良いのではないかと考える。(教育委員)

Q:部活動の地域移行について、保護者向けのアンケートがあったが、その結果についてはどのような利用を考えているのか。(教育委員)

A:結果の公表はしないが、検討委員会ではその結果を見て協議を行っている。(事務局)

A:公表しなかった理由については、内容が非常にセンシティブで、公表するとなると本心が聞けないのではないかとという考えがあった。地域移行について保護者の方が本当はどのように思われているのか、ということが一番知りたかったので、このアンケートを作成した。(事務局)

Q:ひまわりカードについて、6月の調査では摂取率が全体的に下がっていたが、何か理由があったのか。また、今回の1月の調査ではおおむね改善しているが、例えば学校で啓発を行なったなど何か考えられることはあるか。(教育長)

A:今回については、デザインの一新や、啓発の文書をわかりやすいように改善したので、その効果もあったのではないかと考える。(事務局)

A:最近の保護者にはどういう意識があるのかということが気になっていて、例えば10年前の調査と比較したときに比率に差があるのか、何か顕著なことがあれば報告してほしい。そういったことから最近の傾向を探り、そこから保護者にどう啓発していけばよいかということも含めて、今後見ていきたいと考えている。特に5日間の睡眠時間の確保状況を見ると、睡眠不足だということが顕著に出てきている。川島隆太先生も睡眠は大切だということをおっしゃっているので、今後の検討課題として取り上げたい。(教育長)

A:小学校の時は、保護者参加の調理実習というものがあって何回か行った覚えがあるが、中学校はそういったものがなく子どもから話を聞くくらいなので、その辺りからも親の意識が少し下がってくるのではないかと。それから、中学校になると部活の朝練があるので、朝ご飯を食べる時間が早くなることも影響しているのではないかと。中学生は睡眠をきちんととって起きれば、しっかりした量の朝ごはんが食べられる時期だと思うが、睡眠がとれていなくてあまり食べられないまま学校に行って学校でお腹がすくというような、悪循環のようなものを感じている。(教育委員)

A:注目していく必要があると考えるので、今後もこういった調査を定期的に行っ

ていきましょう。(教育長)

4 議案

・議案第1号 小野市屋外運動場の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について (スポーツ振興課)

使用料改正に伴い、申請書等様式を変更する必要等があるため、小野市屋外運動場の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則を別紙のように定めたので、承認を求める。

■【教育委員からの照会及び意見】

Q:長い間この金額だったと思うが、どれくらい改正していなかったのか。(教育委員)

A:消費税が8%、10%になったときも消費税転嫁はしないということで価格を上げていなかったので、5%の時以来だと考える。(事務局)

Q:これは市内の方が使う場合と、市外の方の場合では金額が違うのか。(教育委員)

A:市外の方は2倍の金額になる。(事務局)

Q:様式の使用日時の欄について、4段あるのは1回につき4回分の申請ができるということか。(教育委員)

A:予約があいているのであれば、回数の上限はない。団体の方の申請が多く、毎週予約を取られる方が多いということで、こういった様式になっているのではないかと推測している。(事務局)

(議案第1号について、承認を得る。)

5 協議事項

☆今月の議論のテーマ：**教育サポートセンターの設置及び教員の働き方改革**について (学校教育課)

不登校支援事業 教育サポートセンターの設置

・名称を「適応教室」から「教育サポートセンター」に変更

新たな方針

- ・適応教室の機能を学校へ移して学校で校内サポートルームを作る
- ・適応教室では、寄り添い支援としてどうしても学校に行けない子どもの支援を行う。

- ・保護者の相談する場所がはっきりしないということで、保護者等の教育相談を受ける場として、適応教室の働きを変える。
- ・適応教室の役割を学校復帰に向けた支援から、社会的自立へ向けた支援に変更する。

→今まで適応教室で行っていた、学習指導や生活指導を中心とした不登校の支援については、校内サポートルームで担う。

- ・市内4中学校と小学校2校（小野小・小野東）に校内サポートルームを設置。
- ・適応教室に配置している人員を、中学校を中心に配置を行い、不足する人員については有償ボランティアという形で教員免許を取得している方に就いていただく。県の補助も活用しながら、小野市の実態に合わせた不登校支援を行う。
- ・現在、適応教室に通っている子どもについては、保護者と子どもに対して、今後のスケジュールや内容等の変更を進めていき、スムーズに4月から移行できるように準備を進めている。

教員の働き改革

○リスクマネジメントと多様な働き方を進めるためのリモートワークの導入

- ・先生方の持ち帰り業務としては、以前はアナログで処理できていたが、最近はICTを使った処理が必要な業務が増えてきている。
- ・令和4年度の個人情報漏洩事故発生状況を調べている団体のデータを基に考えると、情報漏洩が一番起きているのが書類、電子メール、その次がUSBメモリ。
→小野市が現状使用しているものは、書類とUSBメモリ。これを合わせると約6割になる。小野市もこの6割の危険性がある状態が続いているということになる。漏洩事故発生率の高い媒体が主流であり、危険度が非常に高い。それから、いわゆるウイルス感染というものに対しても、今のところ各自の対策に任せるしかない状態のため、対策の必要性が高まっている。
- ・そこで、小野市についてはUSBメモリを一切使わずに、家庭でもICTを使った業務ができるように、職員室のパソコンを家のパソコンからリモートワークができるようなシステムの導入を考えている。
- ・安全に業務ができるように体制を整える。職員の8割ぐらいが、子育て世代と介護世代にあたるので、多様な働き方をサポートするという意味も込めて、リモートワークを進める。

○デジタル採点システムの導入

- ・中学校において、解答用紙を読み取りパソコン上で採点・集計等がスムーズにでき、そのデータを基に個の指導ができる、というシステムの導入を考えている。
- ・1人1人が採点していたものを、組織で採点することができたり、データをすぐ次の指導に生かせるというメリットがある。

- ・試験的に今年度使ったところ、英語の採点時間が大体900分かかっていたものが180分まで減少したという事例もあり、かなり効果があると考えている。

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

- ・小野市の場合は、不登校の支援員として各校に派遣するのはできるだけ教員免許を持ったもの、または何年間か適応教室で研修を積んだものという、不登校の対応の仕方を学んでいる者に行ってもらいたいということで現在手配している。県は地域の方でも良いとしているが、なかなか難しい部分があると考えている。ただ、地域の力を借りるとするのは、新しい視点ではないか。任用については柔軟に対応していく。(教育長)

Q:不登校の児童や生徒への対応に、教員免許は持っているが、あまり慣れていない方が入ることがあるということか。(教育委員)

A:現在の適応教室の職員が主となる。それから、新たに配置しようとしている人は、元教員の方で不登校の対応をされた方に声をかけている。(事務局)

A:例えば勉強したいという子どもがいたときに、免許を持っていたらある程度アドバイスができるというようなところで、できるだけ教員免許を持っている方が良いと考えている。やはり実態に応じた行動をしなければならないと考える。それから、サポートセンターにした理由は、不登校だけでなく、様々な子がここに来て時間を過ごせるように、サポートという名前にした。保護者の方も不登校の相談だけでなく、子育てに対する相談ができるような、そういった施設になればと考えている。(教育長)

- ・近隣のフリースクールの活動内容を聞く機会があったので、勉強に聞きに行った。家にいるよりもそこに行って人と会って活動するという事は良いことだと考えるが、やはり勉強はその子に任せるとい形になっていることが心配で、そう思うとこういった場所があって子どもたちが来られるのであれば、良い場所だと実感した。(教育委員)

Q:不登校の子の保護者同士で、お互い話を聞く場というのも大事な場所ではないか。こういった保護者のサポート支援も取り入れられたらどうかと考えるが、その辺りの親のためのあり方というのはどのように考えているのか。(教育委員)

A:以前からも言われていたように、保護者の情報交換の場がなかったり、保護者の相談を受けたりする場所がはっきりしてこなかったというところがあるので、それを教育サポートセンターの業務の一つとして作っている。そこへまず相談しに来てもらったり、例えばそこで保護者同士の情報交換の場が持てるのであれば持っても構わないのではないかと感じている。ただ、他の市町で実践しているところはあるが、なかなか長続きしないということも聞いている。(事

務局)

- ・保護者の方で孤独というのを感じていらっしゃる方も多いと思うので、そこに行けば少し話ができるといったところがあれば良いと考える。(教育委員)

Q:これを進めていく中で、不安に思う部分はあるのか。(教育委員)

A:提案として小野小と小野東小にサポートルームを設置するとしているが、本当は違う学校に設置しなければいけないのではないかという見極めをする必要があると考える。それをどう行うのかというところで、学校から今配置しているのを無くすというのはやはり抵抗があると思うので、そこが一番不安だと考えるところである。(教育長)

A:それから、現在適応教室に通われている児童生徒が、この仕組みの大きな変換をどう理解して、どう対応してくれるかっていうのが、実際にしてみないとわからないところがあるので、この期間を使って丁寧に説明していくことが大事だと考えている。急速な変化を求めるのではなく、ゆっくりと丁寧に子どもの考え方にできるだけ添いながら進めていくことが一番だと考える。(事務局)

Q:サポートセンターの中身というのは、子どもたちが授業でやっている勉強を教えたりするのか。(教育委員)

A:勉強を教えたり、勉強しなくても話を聞いてもらうような時間になっても良いと考える。実際、別室登校で来ている子どもたちが全員勉強しているかというところではなくて、友達と喋りに来ていたり、本を読みに来たり、先生に話を聞いてもらいに来ている子もいる。その中で様子を見つつ、その子ができるところを探りながらやっているのが今の別室指導なので、その流れは基本的には崩さない。(事務局)

Q:休み時間等は学校の時間の流れに沿って動くのか。(教育委員)

A:その通り。ただ、それも絶対ではなくて、まずは子どもに寄り添うことが大切になる。その中で、タイムスケジュールにうまく合うのであればそれで良いし、合わなければまずは自分のやりたいことを中心にやりながら、学習も必要なことは本人たちも一番わかっているので、少しずつ取り組んでいく。(事務局)

- ・社会的自立というのは難しいことだが、自立することが教育の最終目標ではないかと考える。(教育委員)
- ・今日はどう過ごすか自分で決める等、その思想や考え方を少し学校の中に持ち込んでみるというのが今回の取り組みのポイントではないかと考える。(事務局)

Q:保健室登校等は今後どのようになるのか。(教育委員)

A:保健室でないと行けない子もいるので、そこはサポートルームができたからと

いって保健室登校ができなくなるといったことにはならないと考えている。それも子どもの実態に合わせてながら両立するような方向で進めていく必要がある。ただ、保健室指導も難しいところがあり、最初のきっかけを保健室で作ってしまうと、そこへ行き続けないと安心できないということになる。そのため、保健室指導を良しとすると、今度は保健室の機能が果たせなくなってしまう。その辺りの進め方は本当に難しいので、最初にどういう方向に持っていくかということが大事だと考えている。(事務局)

Q:例えば、元々通っていた中学校に行きづらくなってしまい、他の中学校に転入するというパターンはないのか。(教育委員)

A:全て認めているわけではないが、区域外就学になるので、その規定に合わせて配慮しないといけない事情がある場合については、認めていくこともある。話を聞いて特別に配慮する必要があり、それによって子どもが学校生活を送れるようになるのであれば、区域外就学を認める場合もある。また、他市町から小野市に来られる場合もある。(事務局)

Q:この取り組みについて、今後どのように学校側から子どもや保護者に周知していくのか。(教育委員)

A:考えているところではあるが、まずは適応教室に通っている子どもに丁寧に説明する必要があるということと、配置できる人が確定した時点で、各学校に運用の仕方について説明して、学校の中で調整していただくという形になると考える。(事務局)

- ・不登校は社会的に取り組んでいかなければいけない課題なので、今後も意見をいただきたいと考えている。(教育長)

☆今月の議論のテーマ：学校給食費の改定について（学校給食センター）

○学校給食法の法関係

法上の経費の負担区分

原則①調理員の人件費や設備費（維持費）は学校設置者（市）が負担

②食材費、光熱水費は保護者が負担

小野市の負担区分：市が電気・水道代／保護者がガス代を負担

○価格改定に至る背景

- ・食材費の物価高騰による給食業界への影響

→市長部局と情報共有・一元化のうえ迅速に対応

- ・保護者の負担軽減を目的とした給食会計への物価高騰対策補助金

第1弾（R4）給食会計へ1,000万円の補助実施

第2弾（R5）倍増となる2,000万円の補助実施

→それでも不足する現状

- ・学校給食費の改定を行なわなかった場合、学校給食会計は令和6年度以降、毎年度2,500万円以上の赤字となる見込み
- ・教育委員会関連のソフト・ハード事業（校舎の大規模改修・新たな幼稚園の整備等）の執行を考慮すると、市費による赤字補てんは困難な状況

○持続可能な給食会計へ

- ・保護者の更なる負担軽減

→令和6年度から給食会計に残るガス代（約850万円）を一般会計で負担

- ・給食費改定の必要性

次年度以降の一定期間、給食会計の赤字を回避するためには、一食単価について40円～50円の引き上げが必要

- ・小学校：現行240円→280円
- ・中学校：現行260円→310円
- ・新たなチャレンジ リクエストメニュー制の導入、県内産小麦パンの試行導入

○未来につなぐ小野市の給食

基本理念 「行政も経営」に基づく持続可能な給食会計の構築

- ①学校給食法に基づく経費の負担原則の徹底（保護者への啓発）
- ②保護者の負担軽減を目的とした緊急対応（市からの補助金交付）
- ③市長部局との情報共有・一元化による対応

3本柱の有機的連携により安全安心でおいしい給食を継続提供

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：一度給食をいただきたい。（教育委員）

A：それは以前から言っていることなので、必ず実現しましょう。オープンスクールの時に食べていただくのはどうだろうか。（教育長）

A：どういったものが出ているか等、知っていただくきっかけになると考える。（事務局）

Q：匠台にある中心的な企業が、フードロス削減のために例えば子ども食堂を開いたりするということで、よく積極的にお声掛けいただくのだが、給食センターにはそういったことで何かお声掛けはあるのか。（教育委員）

A：今のところはない。保護者から預かった費用を食材に使っているのですが、その食材がもし余ったとして、それをどう公平に活用するのかが、難しいところである。（事務局）

A:それから規格の問題がある。給食センターはオペレーションの関係で11時までには全ての作業を終えて各学校へ運ぶ必要があるので、規格を決めておかないと工程にロスが出てしまう。人間的に少ない中で行っているのだから、規格にこだわっている。フードロスの場合、規格が選べないことと、賞味期限の関係などもあるので、やはり保護者の方々にそういうものを使ってもいいというコンセンサスが取れれば、積極的に使っていくべきだと考えるが、それをどのようにとるかということも1つの課題である。(事務局)

- ・ 様々な課題があるので、意見をいただきながら考えていく必要がある。ただ、今回は値上げという方向へ舵を切っているのだから、保護者には十分理解していただけるような通達の仕方を考えていく。(教育長)

6 次回定例教育委員会予定

令和6年3月18日(月) 午後1時30分 4階会議室4-1

7 閉会あいさつ 教育長